

報道機関各位

熊本大学

第2回美術教育シンポジウム「鑑賞教育は必要なのか？」を開催

熊本大学教育学部美術教育講座では、「鑑賞教育は必要なのか？」と題しまして第2回美術教育シンポジウムを開催いたします。

「鑑賞」は「表現」と並んで美術教育指導上の柱となっています。近年の学会誌や教育実践報告では鑑賞を取り上げた事例がその数を増してきました。鑑賞教育への関心の広がりや高まりを感じさせる現象です。その要因はさまざまにあるでしょうが、美術教育における指導観の変化と物理的環境の変化が大きく影響していると思われます。すなわち前者については、現行の学習指導要領から強調され始めた「言語活動の充実」の推進により、言葉を介在して思考力・判断力・表現力を育てる美術へのアプローチが求められつつあること。後者については教育機器としての視覚メディアの拡充に伴って、視覚芸術の再現が幅広くできるようになったということでしょう。

では実際、私たちは鑑賞教育にどのような成果を望んでいるのでしょうか。手軽で高機能のメディアの普及は視覚データの提供を容易にしました。画像を見ながらコミュニケーションを交わすことはすでに私たちの日常となっています。単にそれが鑑賞教育の目的であるなら、ことさら教育課程として考える性質のものではなくなるでしょう。「鑑賞教育は必要なのか？」。昨年に引き続き第2回となる本シンポジウムは、あえて懐疑的なタイトルを掲げています。本質的な問い直しから始めて、あらためて美術鑑賞教育の目的や方法について考える機会としたいと思います。

つきましては、広く一般の方にお知らせいただくとともに、当日の取材方よろしくお願い致します。

記

【日時】平成28年12月10日（土）13:00～17:00

【場所】熊本大学工学部百周年記念館（熊本市中央区黒髪2-39-1）

【対象】一般の方どなたでも（参加費無料）

【申込方法】直接会場にお越し下さい

※詳しくは別紙チラシをご覧ください。

【お問い合わせ先】

熊本大学教育学部 水野裕史

TEL：096-342-2675

E-mail：art@educ.kumamoto-u.ac.jp

第2回 熊本大学 美術教育 シンポジウム

2016年

12月10日(土)

13:00-17:00

※12:30 受付開始

参加
無料

【テーマ】

鑑賞教育は必要なのか？

【会場】熊本大学工学部百周年記念館

熊本市中央区黒髪 2-39-1 熊本大学黒髪南キャンパス

13:00-13:05 主催者挨拶

八幡 英幸 / 熊本大学教育学部長

13:05-13:15 趣旨説明

喜久山 悟 / 熊本大学教育学部 教授

13:15-14:00 基調講演

鑑賞スキルからレポートリーへ
—学習方略を複眼的に考える—

石崎 和宏 / 筑波大学芸術系 教授

14:20-15:50 研究報告

1 鑑賞教育で何が起きるのか？

石丸 美穂子 / 熊本県立美術館 参事

2 小学校における造形要素に視点を当てた
美術鑑賞教育法

妻藤 純子 / 鳥取県大山町立中山小学校 教諭

3 鑑賞教育は必要です～高等学校の現場から～

山口 一 / 熊本県立松橋高等学校 教諭

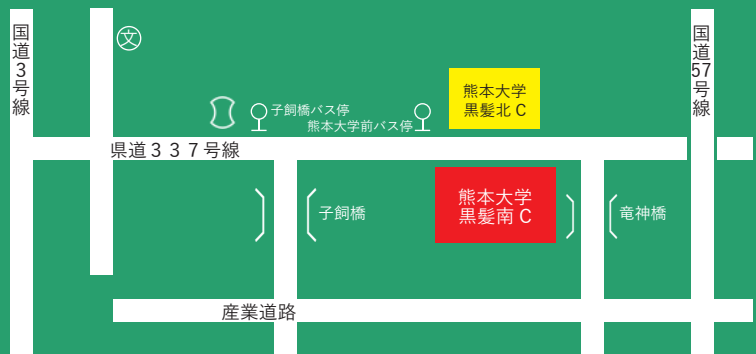
4 “つくり手”の視点で絵を視る

松永 拓己 / 熊本大学教育学部 准教授

16:10-17:00 総合討議

鑑賞教育は本当に必要なのか？

【司会】喜久山 悟



JR熊本駅から

産交バス: 楠団地、武蔵ヶ丘等(子飼橋経由)「熊本大学前」下車
都市バス: 第一環状線 [駅2] (大学病院・大江渡鹿経由)「子飼橋」
下車徒歩 10分
市電+産交バス: 市電の健軍行きに乗りし「水道町」で下車。産交バスへ乗換。水道町バス停より、楠団地、武蔵ヶ丘等(子飼橋経由)「熊本大学前」下車

JR上熊本駅から

都市バス: 第一環状線 [駅1]、昭和町線(子飼橋経由)「子飼橋」下車
徒歩 10分



お問い合わせ先

シンポジウム事務局: 水野 裕史 (みずの ゆうじ)

TEL: 096-342-2675 FAX: 096-342-2676

E-mail: art@educ.kumamoto-u.ac.jp

HP: <http://www2.educ.kumamoto-u.ac.jp/~art/>

「鑑賞」は「表現」と並んで美術教育指導上の柱となっています。近年の学会誌や教育実践報告では鑑賞を取り上げた事例がその数を増してきました。鑑賞教育への関心の広がりや高まりを感じさせる現象です。その要因はさまざまにあるでしょうが、美術教育における指導観の変化と物理的環境の変化が大きく影響していると思われます。すなわち前者については、現行の学習指導要領から強調され始めた「言語活動の充実」の推進により、言葉を介在して思考力・判断力・表現力を育てる美術へのアプローチが求められつつあること。後者については教育機器としての視覚メディアの拡充に伴って、視覚芸術の再現が幅広くできるようになったということでしょう。

では実際、私たちは鑑賞教育にどのような成果を望んでいるのでしょうか。手軽で高機能のメディアの普及は視覚データの提供を容易にしました。画像を見ながらコミュニケーションを交わすことはすでに私たちの日常となっています。単にそれが鑑賞教育の目的であるなら、ことさら教育課程として考える性質のものではなくなるでしょう。「鑑賞教育は必要なのか?」。昨年に引き続き第2回となる本シンポジウムは、あえて懐疑的なタイトルを掲げています。さらに今回は、「鑑賞教育」をご専門とする筑波大学の石崎和宏教授をお招きし、ご講演いただきます。本質的な問い直しから始めて、あらためて美術鑑賞教育の目的や方法について考える機会としたいと思います。

是非ともご参加いただきますよう、宜しく願い申し上げます。

講師紹介 石崎 和宏 (いしざき かずひろ) 筑波大学芸術系教授

筑波大学大学院博士課程芸術学研究科修了。博士(芸術学)。

秋田大学助教授、米国オハイオ州立大学客員研究員、宇都宮大学准教授を経て現職。美術科教育学会理事。

[主な著書・論文]『美術鑑賞学習における発達とレパートリーに関する研究』(共著、風間書房、2006)、『フランツ・チゼックの美術教育論とその方法に関する研究』(単著、建帛社、1992)。『アートでひらく未来の子どもの育ち』(共著、明石書店、2014)、Considering the effects of metacognition in the process of writing about art, From Child Art to Visual Language of Youth, Intellect Publishers, 2013, Aesthetic Development in Cross-cultural Context: A Study of Art Appreciation in Japan, Taiwan and the United States, Studies in Art Education, 43(4), 2002.

会場案内



現在、震災復旧工事のため、大学構内の駐車場が少なくなっています。大変恐縮ですが、大学周辺の民間駐車場をご利用いただくか、公共交通機関でのご来場をお願いします。

事前申込がなくとも参加できますが、座席を確保されたい方は、12月2日(金)までにお申し込みをいただければ幸いです。お手数ですが、下記の欄にご記入の上 FAX (096-342-2676) もしくは同等の内容を Eメール (art@educ.kumamoto-u.ac.jp、件名に〈シンポジウム参加申込〉とご入力ください) にてお送り下さい。

なおシンポジウム終了後に懇親会を予定しております。ご出席いただける場合には、E-mail もしくは FAX にてお申し込みください。

ご芳名 _____ ご所属 _____

電 話 _____ FAX _____

Eメール _____

懇親会 参加 不参加 ※懇親会参加費が別途かかります